



高名なお坊さん（その24）

源信僧都（西暦942年～1017年）平安中期の天台僧

恵心僧都源信（えしんそうずげんしん）と尊称されます。源信は死後阿弥陀如来の来迎を受けて、極楽浄土へ生まれることを願う、浄土信仰を広めた僧として知られます。『往生要集』などにより、源信が示した具体的な死後の世界のイメージは、後世へも多大な影響を及ぼしました。浄土真宗では、七高僧の第六祖とされます。

天慶5年（942年）、大和国（現在の奈良県）北葛城郡当麻に生まれました。源信の母が、高雄寺の観音像に祈願したところ、その霊験によって源信を授かったといわれ、その観音菩薩立像（重要文化財）は現存します。

源信僧都が『往生要集』を書き上げると、お弟子の一人は、夢に『往生要集』を一度聞く者は、ことごとく仏のさとりを開くだろうと告げられ、大変な反響を巻き起こします。



源信僧都自画像

時の皇后が仏教を深く信じていたので、源信僧都に『往生要集』の最初に記された地獄と極楽の絵を描いて欲しいと頼みます。快く承諾した源信僧都が、心を込めて地獄極楽の絵図を描き上げると、受け取った皇后は、それを宮中に飾っておきました。しばらくすると、夜になると閻魔大王の裁判の声が聞こえるとか、獄卒の鬼が責め立て、罪人が苦しむ声が聞こえるという噂が広まり、宮中の女房たちが夜になると廊下も歩けなくなってしまいました。皇后はやむを得ず、源信僧都に地獄極楽の絵図を返したと言われます。



源信僧都

『往生要集』の素晴らしさは、海を越えて中国にも伝わり、宋の皇帝が拝読すると、源信僧都を「源信如来」と仏のごとく敬ったといわれます。

源信僧都は、後世にも多大な影響を与え、76才で浄土へ往生されました。

住職レター

報恩講参りが佳境を迎え、毎日、門徒さんのお宅へ参勤させて貰っております。皆さん仰るのが、「一年が早いね。昨年、住職さんにお参りしてもらってから、もう一年が経つんじゃない」と。確かに、時の移ろいは早いです。コロナ禍になつてから、余計に早くなっているように感じますが、年齢のせいでしょうか。

「時が早よう経つのはね、それだけ毎日が充実しとる証拠ですよ」と、いつも返答しつつ、私自身へも、そのように言い聞かせております。報恩講に参勤した際、お仏壇周りで、肝心な物（仏具）が、見当たらないことがあります。なんだと思われませんか？「報恩講用のお供え物かな...」と、違ひます。お経を称える時に打ち鳴らす仏具『おりん（鈴）』をたたく棒、正確には『鈴棒（りんぼう）』と言いますが、この鈴棒が見当たらないことが、時々あります。本来は、毎朝の読経時に使う、大切な仏具ですから、無い筈はないのですが。家の方に、「鈴棒はどこにありますか？」と、それとなく聞くと、「住職さん、去年お参りしてから、どこに置いちゃったですか？」と、逆に聞き返されます。「お経を毎日、称えているでしょう」と突っ込みたくなりますが、それはまだ良い方で、「無かったら、適当な棒を使つて下さい、そのチャッカマンで...」と、バチ当たりなことを、冗談交じりで言われたり...

この『おりん（鈴）』ですが、仏様（故人）に「お参りにきましたよ」とついでに挨拶だと思つて、仏壇の前に座つたら、チーン、チーン、と打ち鳴らす方が、多くいらつしゃいます。『おりん（鈴）』は、お勤めを始める合図・終わりの合図であり、また声を出すときの音の高さの目安でもありますので、むやみやたらに鳴らさないのが、正しい作法なんです。さて、善教寺の報恩講は、本堂にて、十二月二日（土曜日）にお勤め致します。近隣の法中住職さんが、ご出勤くださり、厳かに読経しますので、楽しみにして、ぜひお参り下さいね。



善教寺庫裏お内仏の『おりん（鈴）』と鈴棒

ゆかりの 寺シリーズ その27

直江兼続 ゆかりの寺

「雲洞庵 (曹洞宗)」



今から1300年ほど前の奈良時代、藤原房前公（藤原鎌足の孫）の母君が出家して当地に庵を結び、金城山から湧き出る霊泉で沢山の病人を救いました。母君亡き後、薬師如来を携えてこの地を訪れた房前公は、母親の菩提を弔う金城山雲洞庵を建立されました。以来、藤原家の尼僧院として律宗に属し、約600年間にわたり特に女人救済の庵寺として大変栄えたのです。

その後、今から600年ほど前の室町時代、関東管領・上杉憲実公が藤原家末裔の因縁で庵をうけ、曹洞宗雲洞護国禅庵を開創し、以降、北陸無双の大禅道場として栄えてきました。

第十三世 通天存達和尚は、5歳の与六（後の直江兼続）を引き取り、雲洞庵で教育しました。直江兼続公は戦国時代の武将としては教養高く、四書五経をはじめ中国古典にも造詣が深かったと云われています。

本堂（新潟県指定文化財）は室町時代永享年間、上杉憲実公によって建立されました。その後1707年（宝永四年）に、新潟県出雲崎の黒甚内を棟梁とする大工群によって再建された寺院は、近世寺院建築の最も優れたものとされています。

赤門から本堂に続く参道の石畳の下には、一石一字ずつ法華経が認められて埋められており、この石畳を踏みしめてお参りすると、罪業消滅・万福多幸の御利益に預かると信仰されています。



本堂（新潟県指定文化財）



直江兼続像（米沢市上杉博物館蔵）



石畳の参道



雲洞庵赤門

「報恩講」(善教寺本堂)

十二月 二日(土)

午前十時〜 朝席
午後一時半〜 昼席

講師 登世岡浩雄師

(広島市東区牛田 安楽寺)

*お接待当番 中郷地区

「宗祖聖人月忌」

門信徒祥月命日法要」(善教寺本堂)

十二月 十六日(土) 午後一時半〜

*毎月十六日に本堂において勤めております。

「除夜会」(善教寺鐘楼堂)

十二月三十一日(日)

午後十一時四十五分〜

*鐘楼堂にて除夜の鐘を撞きます。

「元旦会」(善教寺本堂)

一月 一日(月)

午前七時〜

「御正忌法要」(善教寺本堂)

一月 十三日(土)

午前十時〜 朝席
午後一時半〜 昼席

講師 講師 長尾量之師

(東広島市黒瀬町浄願寺)



今後の法要スケジュール

ご 縁 に 感 謝

善教寺ホームページ『縁』 <http://otera.or.jp/>

メール zenkyo@otera.or.jp